

## 【追悼文】

### 弓削治先生のご活躍を偲んで

田口秀子

秋田大学名誉教授

弓削治先生が2017年9月25日逝去されました。先生は、1951年に京都繊維専門学校製糸科を出られてから、1955～1993まで大阪市立大学生生活科学部に勤務され、1993年～2003年まで(財)衣笠会繊維研究所に勤務、1984年には岐阜県立医科大学にて医学博士を取得、日本繊維製品消費科学会より創立25周年に功労者表彰を受けられています。1994年からは神戸文化短期大学にお勤めでいらっしゃいました。また、2005年5月には被服衛生学部会の名誉会員になりました。

先生の学会におけるご活躍は幅広く、日本繊維消費科学会は言うに及ばず、日本家政学会(永年会員)・日本衣服学会・日本被服衛生学部会・日本産業皮膚衛生協会に所属するなど多岐にわたっており、2001年～2003年には日本防菌防黴学会の会長も務められました。

先生のご研究は、1985年度には「耐熱衣料の熱的性質に関する研究」、1987年度～1989年度には「高齢者を対象としたフェルト製敷ふとんの基礎的研究」の研究代表者としてそれぞれ科学研究費を受けられています。また、「衣料の衛生加工に関する研究—第2報—抗菌剤の皮膚刺激性と衛生加工靴下の結果」防菌防黴1977。「樹脂加工剤の加工条件による皮膚刺激性」繊維消費1996。その他「防菌防臭」監修 繊維社1989、「抗菌のすべて」繊維社1997。「抗菌防黴ハンドブック」技報社1986。など数々の書籍も出されており、常に衛生学・材料学・整理学等、人が置かれた環境との接点に視点を置き模索しながら幅広い活躍をされていました。特に、「保健衛生的機能性と快適性」消費科学会の講座1984では、「保健とは人の健康を保つこと、衛生とは健康の保全・増進をはかることであり、疾病の予防・治療に努めることでもあり、保健も衛生も同じ意味で健康の保持ということである」ととらえ、快適性については、「健康を維持するための気分にあった心地よさである」と述

べ、不快感のない着心地を作り出すにはその製品を構成する繊維の性能を考慮すると共に、環境をも視野に捉えなければならない。との考えを述べられています。この視点は先生のご研究の大きな柱になっていたと思われま

す。日本被服学衛生学部会設立時には、1975年9月28日(S.50年)に杉野女子大学で、稲垣、大野、奥窪、川村、田口、田村、水梨、水野上、弓削、渡辺の10名により第1回の発起人会を、翌1976年(S.51年)には文化女子大学で、稲垣、大野、水梨、水野上、田口、田村、弓削、渡辺の8名で第2回発起人会を開催し、その年に渡辺ミチ先生を委員長として、日本家政学会被服衛生学研究委員会が発足して、その後、現在の被服衛生学部会に至っていますが、この際には弓削先生からも様々なご助言を頂きました。

私的な事ですが、被服衛生部会や消費科学会のセミナーにご一緒させて頂いた時には、私がメッセージャーなることがありました。先生が市立大学におられた時、現在長野の善光寺で、浄土宗大本山善光寺大本願121世法主を務められる鷹司誓玉上人が慶応大学を出られてから、研究生でおられたことがありました。その妹さんが私と同級の鷹司綸子さんでした。先生はセミナーに参加される時に必ず鷹司綸子さんにとお土産を持参しまして、私が大学に戻ってお渡ししたのでした。鷹司綸子さんも2016年に亡くなりましたが、あの柔和なお顔で少し背中を屈めながらあの世でお会いしているかと想像しています。ここに冥福をお祈りいたします。

合掌

<連絡先>

田口秀子

eメール : y-taguchi-h@aq.wakwak.com